

2回戦  
13年秋季リーグ  
第2週・9月20日  
1勝1敗

# 長谷川4打点！投打に奮闘し初白星

## 青学大4 - 6駒大

青学大	2	0	1	0	0	0	1	0	4
駒大	0	3	0	2	0	1	0	0	6

	打安点
(9)砂川	400
(4)前田	410
(6)下川	300
(8)江越	200
(5)福山亮	420
(3)篠原仁	420
(7)齋藤	410
DH長谷川	324
PH永山	100
(2)岩崎	211
計	3095

▽二塁打=福山亮

	回	打安責
片山	3	1542
○高橋涼	3	1120
今永	3	1131



(左)先発・片山は3回で降板と結果を残せなかった



(右)2安打を放った福山亮

負けられない戦いだった。日程の関係で第三戦は他週に持越しとなることとが決定していた一戦、投手陣も昨日完投した今永昇太(経2)が抑えに回るなど総力戦で挑んだ。打線も下位好調。貴重な一勝をつないだ。

初回、先発した片山雄貴(経2)は先頭打者に安打を打たれ、1死二、三塁。失策が絡み2点を先制されるが次の回、福山亮(経2)が先頭となる下位打線の怒涛の連打で3点を取り返す。4回にも福山亮が左翼線へ二塁打を放つと長谷川雄飛(法1)がこの日2本目となる適時打を放ち勝ち越した。

継投は堅実だった。4回からは高橋涼平(経3)が要所を抑える気迫の投球で3回を投げ、2安打無失点。そして抑えて登場したのが昨日8回を投げ完投負けを喫した今永だった。

文・写真 五十嵐秋音

リラックスした様子で立ち上がると、2死三塁、昨日二打席連続被弾を浴びた杉本祐太郎(4年II徳島商業)の打席を三振に抑えガッツポーズ。8回には1点を失うが2死一、二塁の場面、昨日自らの失策がきっかけで決勝適時打を浴びた佐野(4年II大阪桐蔭)の打席をインコースのストレートで三振に取る。「正直張りはあるが」と試合後明かしたが、「それを感じさせない気迫の投球。「打たれた打者を意識するのは当たり前。抑えられたのでよかった」と熱戦後も落ち着いた表情だった。



### ROOKIES・長谷川雄飛 37

初の大学野球の舞台、憧れの地で大活躍し連敗の危機からチームを救った。2回には中越適時打を放ち2点を先制、4回には2球を流し、追い込まれた次のストレートを右翼方向に2点勝ち越しの適時打。怖いものなしのルーキーは一塁ベース上で素直に喜びを表現した。

西村亮監督も「積極的に振れる子。ラッキーボーイですね」と言葉を添えた。敗戦した新人戦では一番を打ち、先制点のきっかけとなる一打を放つなどリーグ戦前から“ラッキーボーイ”ぶりを発揮。その裏にあるのは春にメンバーに入れなかった悔しさからの人知れず続けた努力だった。起床時間より前に起き、ひとりバットを振った。夜にも200本のスイングを続けた結果、「自分の形を作ることができた」と手応えを感じていた。今後も駒大の“ラッキーボーイ”の活躍に注目だ。

(五十嵐秋音)